

## 東北6県 気になる現場

## 仙台・老舗料亭「東洋館」

新型コロナウイルスの影響で一時的閉店した老舗料亭「懷石料理 東洋館」（仙台市）が営業を再開してから5カ月。依然として会食需要の回復が遅れているなか、運営を引き継いだ冠婚葬祭の宮城県内大手、清月記（同）は画像共有アプリ「インスタグラム」の活用やカフェ設定など新たな手法で若い世代の開拓に力を入れている。

東洋館は1907年に創業。木造2階建てで8つの個室を備える。向山のふもとに立地し、広瀬川や市街の夜景などが一望できる。かつては阿部次郎や土井晩翠といった東北大学ゆかりの文学者が通った名店として知られる。

114年の歴史を誇ったが、コロナ禍による客足の激減で経営難に陥り、今年4月に閉店。約1カ月後、清月記が運営を引き継いだ。

営業再開に合わせてイ

東洋館では、新たな利用機会の提案を進める（写真上）。夏期限定で2階の大広間に開いたカフェ「おにかいby東洋館」



## 復活へ若い世代開拓

インスタグラムを始め、四の大きな大広間をカフェ「おにかいby東洋館」とし、季節々の料理や館内風景などを公開した。菅原和樹館主（清月記・常務取締役）は、清月記が2019年に運営を引き継いだ温泉旅館「土湯別邸里の湯」（福島市）でもインスタグラムを活用したPRを展開した経験がある。旅館では「インスタ映え」を意識した写真で20〜30代の集客につながったという。

若い世代へのアプローチに力を注ぐのは、利用者層を広げる恩感があ

## 伝統生かし「映え」アピール

る。これまでのメインメニューは40代以上で、接待や会食、法要といったシーンでの利用が多かった。コロナ禍で会食需要は回復が鈍く、法要も小規模化が進んでいる。

カップルの記念日などの特別な日をはじめ、結婚や婚礼に利用してもらう。清月記が展開する婚礼事業とも連携を強化し、相互の送客需要を見込む。今回カフェは夏期限定だったが、来春にも再び実施する。

新たなアイデアもある。菅原館主は「2階の大広間をジャズバーのようにイベント会場として利用できないか検討している」と話す。夜景が売りの東洋館でジャズバンドの演奏を聴きながらお酒を楽しむといったイベントを開く方針だ。

高級料亭というこれまでのブランドイメージを生かしつつ、新たな利用者を獲得する。難しい両立に向け、今後も工夫が欠かせない。

（仙台支局 南畑竜太）

## 東北

支局

盛秋青仙

岡田森台